

日本の天気の特徴

NO. 1

名前

点

日本の天気について () に当てはまる語句を書きなさい。

- ① 日本の春と秋は、低気圧と () 高気圧が次々に日本列島付近を通過し
 天気が周期的に変わる。この低気圧と高気圧は、ユーラシア大陸の南東部で発生し
 中緯度帯上空の () の影響を受けて、西から東へ向かって動いて
 いる。
- ② 日本の冬の時期は、ユーラシア大陸が冷やされ、大陸上で () 高気圧が
 成長する。高気圧の中心付近には、冷たく乾燥した大きな空気のかたまりができ、
 これは () 気団と呼ばれる。西に高気圧、東に低気圧があることから
 この気圧配置を () の気圧配置という。
 このため、強い季節風がふくことがあり、その風向は () である。
 この風のため、日本海で () をふくんで空気が上昇し、筋状の雲が出来て
 日本海側で多くの () を降らせる。太平洋側は晴天で湿度は ()
 くなる。
- ③ 日本は6月ごろ冷たくしめったオホーツク海気団と、あたたかくしめった
 () 気団が発達して、接して勢力が釣り合うようになる。このとき
 できる停滞前線を () 前線という。
- ④ 日本の夏は () 高気圧が発達し、あたたかくしめった ()
 気団におおわれる。このため高温多湿で晴れることが多い、日中の強い日射しで強い
 上昇気流が生じて () が発生し、雷をともなう夕立が降ることがある。
- ⑤ 夏の終わりから秋にかけては、熱帯低気圧が発達して、最大風速が () m/s
 以上になった () が日本に接近、上陸する。この中心では強い
 () 気流が発生している。また、等圧線の間隔が狭く、() 状で
 前線をともなわない。

解答

- ① 日本の春と秋は、低気圧と（ **移動性** ）高気圧が次々に日本列島付近を通過し、天気が周期的に変わる。この低気圧と高気圧は、ユーラシア大陸の南東部で発生し、中緯度帯上空の（ **偏西風** ）の影響を受けて、西から東へ向かって動いている。
- ② 日本の冬の時期は、ユーラシア大陸が冷やされ、大陸上で（ **シベリア** ）高気圧が成長する。高気圧の中心付近には、冷たく乾燥した大きな空気のかたまりができ、これは（ **シベリア** ）気団と呼ばれる。西に高気圧、東に低気圧があることからこの気圧配置を（ **西高東低** ）の気圧配置という。このため、強い季節風がふくことがあり、その風向は（ **北西** ）である。この風のため、日本海で（ **水蒸気** ）をふくんで空気が上昇し、筋状の雲が出来て日本海側で多くの（ **雪** ）を降らせる。太平洋側は晴天で湿度は（ **低** ）くなる。
- ③ 日本は6月ごろ冷たくしめったオホーツク海気団と、あたたかくしめった（ **小笠原** ）気団が発達して、接して勢力が釣り合うようになる。このときできる停滞前線を（ **梅雨** ）前線という。
- ④ 日本の夏は（ **小笠原** ）高気圧が発達し、あたたかくしめった（ **小笠原** ）気団におおわれる。このため高温多湿で晴れることが多い、日中の強い日射しで強い上昇気流が生じて（ **積乱雲** ）が発生し、雷をともなう夕立が降ることがある。
- ⑤ 夏の終わりから秋にかけては、熱帯低気圧が発達して、最大風速が（ **17** ） m/s 以上になった（ **台風** ）が日本に接近、上陸する。これの中心では強い（ **上昇** ）気流が発生している。また、等圧線の間隔が狭く、（ **同心円** ）状で前線をともなわない。